

# 韓国語「의／ㄹ」及び助詞「～의」に関する発音教育

——外国語としての韓国語学習者を対象に——

金 泰 虎

## 問題の所在

第1章「의／ㄹ」及び助詞「～의」の発音と表記  
の規定及び韓国語学習用テキスト

(1)「標準語規定」と「ハングル正書法」

(2)日本における初級韓国語テキスト

第2章「ㄹ」の発音と助詞「～의」の使い方

(1)発音の特徴

(2)助詞「～의」の使い方

第3章 外国語としての韓国語学習者における助  
詞「～의」

(1)助詞「～의」と「～에」に対する音感

(2)助詞「～의」の発音教育

結びにかえて

キーワード：標準語規定、ハングル正書法  
(한글 맞춤법)、「의」の発音、  
助詞「～의」、助詞「～에」、  
韓国語学習用テキスト

## 問題の所在

本稿は、韓国語を母語とする人々を対象にし

た「의／ㄹ」及び助詞「～의」の発音や表記の  
規定が、日本における外国語としての韓国語学  
習者の学習用テキストに、いかに紹介され、ま  
たその発音教育にどのような問題があるのかを  
調べて、「의／ㄹ」及び助詞「～의」に関する  
よりよい発音教育の提示を目的とする。

この「의／ㄹ」及び助詞「～의」に関しては、  
「標準語規定」<sup>(1)</sup>、「ハングル正書法 (한글 맞  
춤법)」<sup>(2)</sup>及びその解説<sup>(3)</sup>に発音や表記の規定  
が明記されている。ことに「標準語規定」では、  
「의／ㄹ」を [ㄹ] や [l]、助詞「～의」に関  
しては [ㄹ] や [ㄹ] と発音すると定めている。

ところで、従来は主に文章の助詞「～의」を  
対象に、名詞化・冠形化・属格（所有格）にお  
ける機能と意味<sup>(4)</sup>、使われる状況や機能<sup>(5)</sup>、  
そして日本語「の」と韓国語「～의」の機能の  
比較<sup>(6)</sup>を中心とする研究が行われてきた。し  
かし、外国語としての韓国語学習用テキストに  
おいて、「의／ㄹ」及び助詞「～의」に関する

(1)「標準語規定」(『教育部告示』第88-2号、1988年、  
韓国)

(2)「ハングル正書法 (한글 맞춤법)」(『教育部告示』  
第88-1号、1988年、韓国)

(3) [http://www.korean.go.kr/search/grammar/  
rule/explain\\_rule2.html](http://www.korean.go.kr/search/grammar/rule/explain_rule2.html)

(4)名詞化については、徐正洙「国語の基本構文と名詞  
句節における生成の文法的分析 (국어의 기본構文과  
명詞句節의 生成文法的 分析)」(『語学研究』第10-  
2号、ソウル (서울) 大学校語学研究所、1968年、韓  
国)、冠形化については (成光秀「国語における冠形  
格の構成 (국語 冠形格 構成)」(『国語国文学』第  
58-60号、国語国文学会、1973年、韓国)、沈在箕

「冠形化の意味と機能 (冠形화의 意味 機能)」(『語  
学研究』第15-2号、ソウル大学校語学研究所、1979  
年、韓国)、属格 (所有格) については李珉鎬「中世  
国語における属格語尾の一考察 (중세国語 属格語尾  
의 一考察)」(『国語国文学』第70号、国語国文学会、  
1976年、韓国)、任洪彬「存在前提と属格標識「의」  
(存在前提와 属格標識「의」)」(『言語と言語学 (言  
語와 言語学)』第7号、韓国外国語大学校言語研究  
所、1981年、韓国) などに取り上げられよう。

(5)金光海「「～의」の意味 (「～의」의 意味)」(『文  
法研究』第5輯、文法研究会、1984年、韓国)、金明  
姫「「～의」の意味と機能 (「～의」의 意味 機能)」

発音の紹介やその教育、そして会話における助詞「～의」の使い方や、その例外の発音 [ㄹ] については追究されていない。

したがって、韓国語学習用テキストにおける「의／ㄹ」及び助詞「～의」に関する発音の紹介、特に助詞「～의」に対する [ㄹ] や [ㄱ] の発音をめぐって、外国語としての韓国語学習者にその弁別能力が定着しているのか否かを調べ、それに基づいて発音教育を考えるのは重要な研究課題であると言える。

本稿では、まず「標準語規定」、「ハングル正書法」や、その解説における「의／ㄹ」及び助詞「～의」に関する表記と発音の規定を紹介し、その発音に関する内容が韓国語学習用テキストにいかにか盛り込まれているのかを検討する。次いでは「ㄹ」に関する発音の特徴、そして会話における助詞「～의」の使い方を踏まえて、日本における外国語としての韓国語学習者により適した発音教育を提案する。

## 第1章 「의／ㄹ」及び助詞「～의」の発音と表記の規定及び韓国語学習用テキスト

韓国の「標準語規定」と「ハングル正書法」(한글 맞춤법)では、「의／ㄹ」及び助詞「～의」の発音と表記についていかに規定されているのか、そして日本における韓国語学習用テキストでは、この規定がどのように紹介されているのかを取り上げることにする。

### (1) 「標準語規定」と「ハングル正書法」

#### a. 「標準語規定」

「標準語規定」の第2部「標準発音法」(第2章の5項)には、「의／ㄹ」及び助詞「～의」の発音に関して、次のように規定している<sup>(7)</sup>。

第5項、「ㄷ, ㅂ, ㅅ, ㅈ, ㅊ, ㅌ, ㄴ, ㄹ」は二重母音で発音する。

(中略)

但し3、子音を初声にもつ音節の「ㄹ」は [ㄹ] で発音する。

널리리 (びいひゃら)、넉으름 (素早く)、무늬 (紋)、찍어쓰기 (分かち書き)、씩어 (書かれて)、띄어 (開かれて)、희어 (白くて)、희뽀다 (気分がいい)、희망 (希望)、유희 (遊戯)

但し4、単語の初声以外の「의」は [ㄹ] で、助詞「의」は [ㄱ] に発音することも認める。

주의 (注意) [주의／주이]、협의 (狭義) [허브 | 허비]、우리의 (我々の) [우리의／우리예]、강의 의 (講義の) [강의의／강이에]

「標準語規定」の「但し3」におけるアンダーラインでは、「子音を初声にもつ音節」の場合、「ㄹ」に対して例外なく [ㄹ] で発音すると定める。この「子音を初声にもつ音節」とは、語頭の意味ではなく、個々の文字レベルにおいて最初にくる子音、つまり「子音」と「ㄹ」が結合する文字を意味する。例えば、「희망 (希望)」、「유희 (遊戯)」である。

ㄴ (『言語』第12-2号、韓国言語学会、1987年、韓国)

(6) 崔丁竜「『の』と『의』の機能及び対応に関する考察—韓日両国の中学国語教科書を資料にして—」(『釜山女大論文集』第25輯、釜山女子大学校、1988年、韓国)

(7) 前掲「標準語規定」(『教育部告示』第88-2号)

제5항 ‘ㄷ, ㅂ, ㅅ, ㅈ, ㅊ, ㅌ, ㄴ, ㄹ’ 는 이중모음으로 발음한다.

(중략)

다만 3. 자음을 첫소리로 가지고 있는

음절의 ‘ㄹ’ 는 [ㄹ] 로 발음한다.

널리리, 넉으름, 무늬, 찍어쓰기, 씹어, 띄어, 희어, 희뽀다, 희망, 유희  
다만 4. 단어의 첫 음절 이외의 ‘의’ 는 [ㄹ] 로, 조사 ‘의’ 는 [ㄱ] 로 발음함도 허용한다.

주의 [주의／주이], 협의 [허브 | 허비], 우리의 [우리의／우리예], 강의의 [강의의／강이에]

(表1)「標準語規定」における「의／ㄴ」及び助詞「～의」の発音

	「의」の位置／子音を初声にもつ音節 (子音+「ㄴ」)／助詞	事例	実際の発音	「ㄴ」の発音
i	語頭	의사 (医者)	[의사]	[ㄴ]
ii	語頭以外	모의 (模擬)	[모의]	[ㄴ]
iii		모의 (模擬)	[모이]	[ㅣ] *
iv	子音を初声にもつ音節 (子音+「ㄴ」)	희망 (希望)	[희망]	[ㅣ]
v		유희 (遊戯)	[유희]	[ㅣ]
vi	助詞	우리의 (我々の)	[우리의]	[ㄴ]
vii		우리의 (我々の)	[우리예]	[예] *

\* 印は、「의」に対して例外的に容認する発音を意味する。

一方、「但し4」におけるアンダーラインの「単語の初声以外」とは語頭以外という意味で、その裏を返せば、語頭であるかどうかに関わらず「의」は [ㄴ] とする発音原則のもと、語頭以外では例外的に [ㅣ] も容認し、助詞「～의」に関しては発音原則の [ㄴ] だけではなく、例外に [예] も認めるということである。

以上の「標準語規定」における「의／ㄴ」及び助詞「～의」の発音規定を整理すると、以下のようなになる。

このように「의／ㄴ」及び助詞「～의」に関しては原則と例外を合わせて [ㄴ]・[ㅣ]・[예] という三つの発音が存在する。つまり、「의」が語頭である i では例外なく [ㄴ] であり、語頭以外では、原則としての ii の [ㄴ] に加えて iii の [ㅣ] も認める。「의」が助詞の場合は、vi の [ㄴ] に加えて例外として vii の [예] も認める。

ところで、「子音を初声にもつ音節 (子音+「ㄴ」)」については、iv・v のように、[ㅣ] しに認めない。

#### b. 「ハングル正書法」とその解説

次に「標準語規定」における「의／ㄴ」の発音規定に対して、その表記はいかに規定されているのか、「ハングル正書法」<sup>(8)</sup> と、その解説を日本語に訳して取り上げてみる。

第9項、「의」や子音を初声にもつ音節の「ㄴ」は、[ㅣ] で発音されるケースがあっても「ㄴ」に記す。(ㄱを選択し、ㄴは選択しない)

(ㄱ)	(ㄴ)
의의 (意義)	의이
본의 (本意)	본이
무늬 (紋)	무니
보늬 (浹皮)	보니
오늬 (矢筈)	오니
하늬바람 (西風)	하니바람

(8) 前掲「ハングル正書法 (한글 맞춤법)」(『教育部告示』第88-1号)

제9항 ‘ㄴ’ 나, 자음을 첫소리로 가지고 있는 음절의 ‘ㄴ’ 는 ‘ㅣ’ 로 소리나는 경우가 있더라도 ‘ㄴ’ 로 적는다. (ㄱ을 취하고 ㄴ을 버림)

(ㄱ)	(ㄴ)	(ㄱ)	(ㄴ)
의의	의이	늬으름	녕름
본의	본이	띄어쓰기	떠어쓰기
무늬	무니	썩어	썩어
보늬	보니	튀어	티어
오늬	오니	희망	히망
하늬바람	하니바람	희다	히다
닐리리	닐리리	유희	유히

널리리 (びいひゃら)	널리리
(ㄴ)	(ㄴ)
널ㅇ름 (素早く)	널름
띄어쓰기 (分かち書き)	띄어쓰기
써어 (書かれて)	써어
띄어 (開かれて)	띄어
희망 (希望)	히망
희다 (白い)	히다
유희 (遊戯)	유히

このように「ハングル正書法」では「의／ㄴ」が「[ㅣ]」と発音されても、書くときはもとの通り「ㄴ」と記すと定めている。ところで、「標準語規定」として例外に認めている助詞「～의」に関する「[ㅣ]」(表1のvii参照)は言及していないが、これについては以下の「ハングル正書法」の解説<sup>(9)</sup>が、補足しているのである。

現実的に「ㄴ」と「ㅣ」, 「ㄴ」と「[ㅣ]」は各々弁別の特徴をもっており、また発音現象より保守性を帯びる表記法では、変化の推移をそのまま反映することはできないので、「ㄴ」が「ㅣ」や「[ㅣ]」に発音される傾向があっても「ㄴ」と記すことにしたのである。(下略)

以上のように「의／ㄴ」及び助詞「～의」が、例え「[ㅣ]」・「[ㅣ]」・「[ㅣ]」と多様に発音されても、表記の際は、もとの通り「ㄴ」と記す。これは、同じ「ハングル正書法」第1章の総則に、「ハングル正書法は標準語を発音通り書くが、語法<正書法>に合わせるのを原則とする」<sup>(10)</sup>との大原則に基づいているのである。

## (2) 日本における初級韓国語テキスト

「標準語規定」で確認してきた「의／ㄴ」及

び助詞「～의」の発音が、日本の大学で採択されている初級韓国語テキストの上位10位までにおいては、いかに紹介されているのか。

以上、(表2) ①～⑩において、「의／ㄴ」及び助詞「～의」の発音がそれぞれいかに紹介されているのか整理してきたが、さらに分析を進めてみる。

まず、「標準語規定」に基づいて整理した「의／ㄴ」及び助詞「～의」に関する発音内容、つまり(表1)におけるi・ii・iii・iv・v・vi・viiのすべてを紹介しているテキストは(表2)にない。

(表2)における①～⑩では、ほとんどが語頭以外の「의」に関する発音原則であるiiについて言及していない。ところで、①は「의」に関する詳しい発音の説明を行っていないため、かえって「의」が「[ㅣ]」であるとの発音原則の説明を行った結果になっている。「[ㅣ]」に関する発音原則のiiより、例外発音であるiiiが実際の言語生活で主流になっていることについては、次章で取り上げることにする。

さらに、①④⑦⑩では「子音」と「ㄴ」が結合した場合のiv・vが明確に記されていない。この「[ㅣ]」は他の環境における「ㄴ」と異なり、発音の選択余地、つまり例外が与えられていないのである。

次に助詞「～의」の発音に関しては、①④⑥が発音原則を示し、④⑥ではさらに例外の「[ㅣ]」まで紹介している。一方、②⑤⑦⑧⑩では発音原則を提示せず、「[ㅣ]」と発音するものだけを記している。

ところで、(表2)の幾つかのテキストでは助詞「～의」が所有格、または助詞「～の」に

(9) 前掲 [http://www.korean.go.kr/search/grammar/rule/explain\\_rule2.html](http://www.korean.go.kr/search/grammar/rule/explain_rule2.html)

현실적으로 「ㄴ」 와 「ㅣ」, 「ㄴ」 와 「[ㅣ]」 가 각기 변별적 특징을 가지고 있으며, 또 발음현상보다 보수성을 지니는 표기법에서는 변화의 추세를 그대로 반영할수는 없는 것이므로, 「ㄴ」

가 「[ㅣ]」 나 「[ㅣ]」 로 발음되는 경향이 있더라도 「ㄴ」 로 적기로 한 것이다. (하략)

(10) 前掲「標準語規定」(『教育部告示』第88-2号) 第1部1章1項の「한글 맞춤법은 표준어를 소리대로 적되, 어법에 맞도록 함을 원칙으로 한다」による。

(表2) 初級韓国語テキストにおける「의／ㄹ」及び助詞「～의」の発音紹介

ランキング	書名(出版社)	「의／ㄹ」及び助詞「～의」の発音紹介
①	『これならわかる! 朝鮮語』(白水社)	i・ii・vi
②	『コミュニケーション韓国語 会話編1』(白帝社)	i・iii・iv・v・vii
③	『ことばの掛け橋』(白帝社)	i・iii・iv・v
④	『書いて覚える初級朝鮮語(改訂版)』(白水社)	i・iii・v・vi・vii
⑤	『総合韓国語1』(白帝社)	i・iii・iv・v・vii
⑥	『韓国語初級』(白帝社)	i・iii・iv・v・vi・vii
⑦	『基礎から学ぶ韓国語講座』(国書刊行会)	i・iii・v・vii
⑧	『韓国語レッスン初級1』(スリーエーネットワーク)	i・iii・iv・v・vii
⑨	『総合韓国語2』(白帝社)	/
⑩	『フレンドリーコリアン1』(オフィス・ミケ発行)	i・iii・v・vii

\* ランキングは、「大学等の韓国語授業で使われている教材」(『日本の大学等における韓国朝鮮語教育—2002年度調査の中間報告—』財団法人国際文化フォーラム、2003年)に基づいて、日本の大学で採択している上位10までの初級韓国語テキストを整理したものである。

\* 韓国で出版されたテキストはランキングから省く。

\* 「의／ㄹ」及び助詞「～의」の発音紹介は、(表1)の分類による。

該当する場合、[ㄹ]と発音すると記している。しかし、このケースだけではなく、主格(～が)の場合においても[ㄹ]とすることがあるのだが、これについては後ほど触れることにする。

ちなみに⑨は、シリーズ(初級)ものとして⑤の続きであり、すでに⑤で紹介を行っているため、⑨では触れていないのである。

以上の(表2)で見るように、上位10位までの初級韓国語テキストにおいて「의／ㄹ」及び助詞「～의」に関する発音規則を網羅しているものはなく、またその紹介内容にはばらつきがある。したがって、外国語としての韓国語学習者にとって「의／ㄹ」及び助詞「～의」の正確な発音原則の理解は難しいに違いない。

## 第2章 「ㄹ」の発音と助詞「～의」の使い方

本章では、「ㄹ」の発音にはどのような特徴があって、また助詞「～의」の使い方にはいかなる特色があるのかを考察する。

### (1) 発音の特徴

「ㄹ」は後舌母音の「ㅡ」と前舌母音の「ㅣ」が組み合う複合母音<sup>(11)</sup>である。一般的に単純母音や複合母音は前舌から後舌へ発音が移動していく傾向にある。例えば、「ㄴ」をゆっくり発音してみると、前舌母音の「ㅣ」から後舌母音の「ㅓ」へ発音が移動していくことが分かる。しかし、「ㄹ」はこの傾向とは方向が逆なので、その発音が難しいのである。

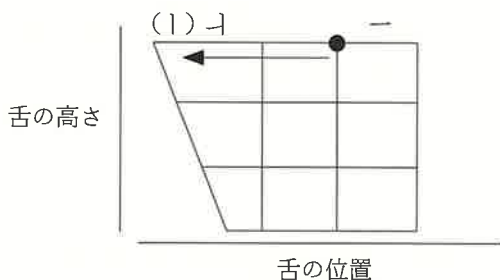
グヒョンオク(구현옥)氏は、「ㄹ」は舌が

(11) この母音用語の多様性については、拙稿「日本における韓国語教育の諸問題」(『言語と文化』第9号、甲

南大学国際言語文化センター、2005年) 223～224頁を参照されたい。

「一」から「ㅣ」の位置へ移っていく過程で出る音で、韓国語における唯一の下降する複合母音であり、人によっては「ㅏ」に発音することもあるが、「一」から「ㅣ」の位置へ移っていく過程の距離が短いため、「ㅏ」を「ㅣ」に発音してしまうとする<sup>(12)</sup>。これは、(表1)における「ㅏ」に関する発音規則(ii)の「ㅏ」より、例外的に認めている発音(iii)の「ㅣ」がほぼ世間では主流をなしていることで現れている。この発音の仕組みを発音図で示すと、次のようになる。

(図1)「ㅏ」の発音図



特に、助詞「~의」に対して例外的に「ㅏ」と認めるのは、韓国の標準語圏<sup>(13)</sup>における多くの人々が「ㅏ」と発音しているためである。その「ㅏ」の発音を好む根本理由は、同じ複合母音の中でも「ㅏ」よりは「ㅏ」が発音しやすいからであろう。この「ㅏ」の発音はネイティブスピーカーにとっても難しく、とりわけ外国語としての韓国語学習者にはより一層難しいに違いない。この「ㅏ」の発音の特徴については、

音声学・音韻学の側面からさらなる追究が求められる。

## (2) 助詞「~의」の使い方

「ㅏ」、とりわけ助詞「~의」が文章と会話で、いかに使われるのかに注目してみる。

まず、次の文章における助詞「~의」から考察しよう。

アンダーラインの助詞「~의」の意味は、次のおおむね四例で考えられる。

「일본에서의 일년은 아주 유익했어요 (日本での一年間はとても有益でした)」

(ア) 산 (住んだ)

(イ) 보낸 (送った)

(ウ) 활동한 (活動した)

(エ) 경험한 (経験した)

韓国では「甲午更張 (1894年)」<sup>(14)</sup>を境に言文一致が行われているが、助詞「~의」は文章を書く(文語体:文章)ときにはよく現れても、話をする(口語体:会話)ときは避ける傾向がある。

上の文章に基づいて話すとき、アンダーラインの助詞「~의」は使わず、話の筋に合わせて、(ア)～(エ)の四つの中から適切な意味を選び取って置き換えて表現するのが一般的である<sup>(15)</sup>。

会話で助詞「~의」を使わない傾向は、次の(表3)における韓国語学習用テキストの本文内容からも裏付けられる。これらのテキストにおける本文の会話文は、本来、話すことを想定

(12)グヒョンオク (구현옥)『国語音韻学の理解 (国語音韻학의 理解)』韓国文化社、2000年、韓国) 88頁。

(13)韓国の標準語圏とは、標準語規定で「教養のある人々が広く使う現代のソウル言葉に決めることを原則とする (教養있는 사람들이 두루 쓰는 현대 서울말로 정함을 原則으로 한다)」と示しているように、ソウル言葉、つまりソウルを中心とするコリア半島の中中部地域である。

(14)1894年の甲午更張は、朝鮮王朝の諸制度を近代的に改めた改革である。国文学・国語学においては古典と

現代を区分する基準となっている。

(15)文章を前提にした議論ではあるものの、このことについて前掲金明姫氏は「~의」の意味と機能(「~의」의 意味 機能) 253～256頁で、「一般化機能」とする。一方、前掲金光海氏(「~의」의 意味 (「~의」의 意味))は、「置き換えること」や、例えば「우리의 집 (我々の家)」において「~의」を省略して「우리집 (わが家)」とするのを含めて「ゼロ化」としている。



(表3) 初級韓国語テキストの本文における助詞「～의」の使用状況

ランキング	助詞「～의」の使用例	日本語訳	頁
①	a. 20세기는 전쟁의 시대였다.	20世紀は戦争の時代だった。	62
	b. 21세기는 평화의 시대가 되어야 한다.	21世紀は平和の時代にならないといけない。	62
②	여러분, 장래의 꿈이 뭐예요?	皆さん、将来の夢は何ですか。	91
③	c. 스승의 날입니다.	先生の日です。	40
	d. 꿀이나 감미료를 첨가하면 인삼의 맛을 더욱 즐길 수 있습니다.	蜂蜜や甘味料を添加すると人参の味をもっと楽しむことができます。	104
	e. 서울의 날씨는 어떨지요?	ソウルの天気はどうですか。	138
④	외국어는 지금까지 몰랐던 세계의 발견이며 새로운 나 자신과의 만남이다. 또 하나의 지구다.	外国語は今まで知らなかった世界の発見であり、新しい自分自身との出会いだ。もう一つの地球だ。	101
⑤	f. 천만의 말씀입니다.	とんでもありません。	14
	g. 341의 5073	341の5073	98
⑥	누구의 책입니까?	誰の本ですか。	72
⑦	使用事例なし	/	/
⑧	使用事例なし	/	/
⑨	h. 전 한국과 일본의 문화교류에 관한 일을 하고 싶어요.	私は韓国と日本の文化交流に関する仕事をしたいです。	20
	i. 요시다의 18번은 소방차의 “어젯밤의 이야기”예요.	吉田の18番はソバンチャ（消防車）の「昨晚の話」です。	66
	j. 수지씨는 아무로 나미에 팬클럽의 회원이예요.	スヅジ氏は安室奈美恵のファンクラブの会員です。	72
	k. 한국에도 일본가수의 팬클럽이 있어요?	韓国にも日本歌手のファンクラブがありますか。	72
	l. 요샌 한국의 김치가 인기가 있어요.	最近は韓国のキムチが人気があります。	104
⑩	使用事例なし	/	/

\*ランキングは、(表2)と同じである。

してつくられた文章であることを、まず理解しておく必要がある。

(表3) ①～⑩の本文内容における助詞「～의」の使い方について、詳しく分析しよう。

⑦⑧⑩における本文の会話文の中で助詞「～의」は全く使われていない。なお、①④の本文においても助詞「～의」は全く使われていないと言えよう。なぜなら、(表3)における①④は会話文ではないからである。つまり、会話においては助詞「～의」を使わないのが一般的な傾向なのである。しかし、この傾向とは逆に②

⑥では、会話文であるにもかかわらず助詞「～의」が使われているが、会話としては違和感を感じさせる。

ただ会話であっても、③cにおける「스승의 날」は祝日名（固有名詞）なので、助詞「～의」の使い方に違和感はない。さらに d・e が会話文なら同じく助詞「～의」の使用に違和感を抱くが、前者の d は人参茶の飲み方に関する説明書で、後者の e は手紙（書簡）であり、会話文ではないので違和感を感じない。

一方、③c と同様、⑤f・g は会話では省くこ

とができない助詞「～의」である。ところで、⑨i・j・k・lは会話文であるが、若干違和感のある会話文である。普通なら、この会話の中で、すべての助詞「～의」を省くのが自然である。但し、「어젯밤의 이야기」は曲名（固有名詞）なので、③c・⑤f・gと同じように見ることができる。ここでiを会話文らしく直すと、「요시다씨 18번은 소방차 노래 (または, 가 부른) “어젯밤의 이야기” 예요」となろう。アンダーラインの前者は「歌」、後者は「～が歌った」という意味である。またhも会話文に直してみると、「전 한일 문화교류에 관한 일을 하고 싶어요 (私は韓日の文化交流に関する仕事をしたいです)」<sup>(16)</sup> とするのがナチュラルであろう。ちなみに、lは前後の会話の内容から筋が通っていない答え方であるため、説明を行わないことにする。

ところで、文章、会話、そしてその文章を読み上げる際には、助詞「～의」がそれぞれどうなるのか、次の例文で検討してみよう。

以下、韓国で多発している労働争議に際しての労働組合側の声明文(㉑)・談話(㉒)・声明文の朗読(㉓)である。同じ内容であっても、㉑・㉒・㉓というそれぞれの状況によって、助詞「～의」の使い方が異なる。

㉑은행노조의 요구사항은 현행 노조법의 철폐입니다. (銀行労働組合の要求事項は現行の労働組合法の撤廃です)

㉒은행노조가 주장하는 요구사항은 현행 노조법 철폐입니다. (銀行労働組合が主張する要求事項は現行されている労働組合法の撤廃です)

㉓은행노조의 [에] 요구사항은 현행

노조법의 [에] 철폐입니다. (銀行労働組合の要求事項は現行の労働組合法の撤廃です)

㉑は、声明文の一部である。一方、㉓は㉑の文章の声明文を読み上げるときであり、標準語圏における多くの人は助詞「～의」を[의]と発音する。

一方㉒は、労働組合の幹部がマスコミ各社のインタビューに応じたとき、㉑をそのまま読み上げるのではなく、㉑に基づいて談話したものである。つまり、㉑のような文章を話すときは㉒のように助詞「～의」を避けて、アンダーラインのように筋に合わせて変えたり、あるいは流れに応じて■のように省いたりする傾向がある<sup>(17)</sup>。助詞「～의」を使わなかったり、置き換えたり、また省いたり、[의]と発音したりするのは、すでに言及したように、その発音の難しさによるものに違いない。

このように「-」は発音が難しく、特に助詞「～의」は文章の中ではよく使われるものの、会話では避けられる。しかし、会話の中で助詞「～의」を避けることができない場合や、文章における助詞「～의」を読み上げる場合には、[의]とする傾向が強い。

### 第3章 外国語としての韓国語学習者における助詞「～의」

外国語としての韓国語学習者に助詞「～의」に対する[-]と[의]、また助詞「～의」に対する[의]と助詞「～에」に対する[의]の弁別能力がどれくらい身についているのかを調査する。その結果に基づいて学習者に適切な発

(16) 助詞「～의」(会話・文章)を日本語で訳する時、概ね次の三つで訳される。㉑一般的には「～の」、㉒主格の場合は「～が」、㉓訳さず省くことである。ちなみに、「～의」がなくても、「～の」を入れるケースが多い。前掲崔丁竜「『の』と『의』の機能及び対応に関する考察」も合わせて参照されたい。

(17) 前掲金光海「『～의』の意味(『～의』의 意味)」では、文章において次の三つの場合、所有主・被所有主の関係、全体・部分の関係、親族関係においては助詞「～의」を省くことができるとする。



音教育を提案する。

# (1) 助詞「～의」と「～에」に対する音感

次のアンケート調査（例文 A・B・C）では、外国語としての韓国語学習者に助詞「～의」に対する [－i] と [－e]、そして助詞「～의」に対する [－e] と助詞「～에」に対する [－e] を書き取らせて、その弁別能力を調べる。

アンケート調査対象は、K大学で初修外国語として「基礎韓国語」という科目を履修済みした者である。この科目は通年で週2コマ（1コマ/90分）の授業である。使用テキストは（表2）の③④で、読解中心（Ⅰ）＜書く・読む＞の1コマは③、一方の会話中心（Ⅱ）＜話す・聞く＞の1コマは④である。アンケート調査に応じた学習者は、引き続き中級に進んで学習しており、その人数は30人である。ちなみに、例文 A・B・C における語彙は「基礎韓国語」のテキスト（③④）の中で、すでに学習したものであり、文章は学習したパターンと酷似する内容である。調査に当たっては、例文 A・B・C の韓国語文章を3回ずつ読み上げた。

以下では、助詞「～의」に対して [－i] と [－e]、また助詞「～에」に対しては [－e] に焦点を合わせる。そのため、例えば文章中の「앞의（前の）」に対して [아페]・[아프]と発音し、「ハングル正書法（한글 맞춤법）」で規定しているように「앞의」と書くことができるのか。そして、「앞에（前に）」を [아페] と発音して「앞에」と書けるのかが調査の重点内容である。

（例文 A）助詞の「～의」を [－e] に発音したケース

- ① 우리의 [에] 소원입니다.（我々の願いことです）
- ② 건물의 [에] 왼쪽이에요.（建物の左側です）

③ 나 자신과의 [에] 만남이다.（私自身との出会いだ）

④ 한국의 [에] 국어책이에요.（韓国の国語教科書です）

⑤ 또 하나의 [에] 지구입니다.（もう一つの地球です）

（表4）「例文 A」の書き取り結果（30人）

項目	正解者数	正解率
①	3人	10.00%
②	1人	3.33%
③	2人	6.67%
④	2人	6.67%
⑤	4人	13.33%
全問平均正解率		8.00%
全問平均誤解率		92.00%

（例文 B）助詞の「～의」を [－i] のまま発音したケース

① 새로운 세계의 [의] 발견입니다.（新たな世界の発見です）

② 선생님의 [의] 가방이에요.（先生のカバンです）

③ 일본의 [의] 다나카입니다.（日本の田中です）

④ 친구의 [의] 동생이에요.（友人の弟です）

⑤ 스승의 [의] 날입니다.（先生の日です）

（表5）「例文 B」の書き取り結果（30人）

項目	正解者数	正解率
①	24人	80.00%
②	22人	73.33%
③	20人	66.67%
④	26人	86.67%
⑤	18人	60.00%
全問平均正解率		73.33%
全問平均誤解率		26.67%

(例文 C) 助詞「～에」のケース

- ①학교에 [에] 갑니다. (学校に行きます)
- ②우체국 앞에 [에] 있습니다. (郵便局の前にあります)
- ③바다에 [에] 있어요. (海にあります)
- ④고향에 [에] 돌아갑니다. (故郷へ帰ります)
- ⑤우리나라에 [에] 언제 왔어요? (我が国にいつきたのですか)

(表 6) 「例文 C」の書き取り結果 (30人)

項目	正解者数	正解率
①	27人	90.00%
②	24人	80.00%
③	28人	93.33%
④	20人	66.67%
⑤	27人	90.00%
全問平均正解率		84.00%
全問平均誤解率		16.00%

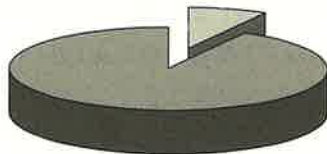
(表 4・5・6) に基づいて円グラフで示すと、(図 4・5・6) のようになる。

(表 4) 「例文 A」から、助詞「～의」に対する [ㄹ] の場合、平均正解率は 8% に留まっていることがわかる。「～의」と記すべきものを「～에」と書いている学習者がほとんどである。(図 4) は、その誤解率である。このことは文章における助詞「～의」の文法的特徴がほとんど理解されておらず、「～의」と「～에」の弁別能力が根付いていない証と言える。

また、「例文 B」の助詞「～의」に対する [ㄹ] は、(表 5) が示すように、平均正解率が 7 割を超えている。(表 4) と (表 5) の調査結果から、学習者には助詞「～의」と「～에」に対する弁別能力がほとんどなく、発音通り書いたと分析できよう。つまり、「～의」に対する (図 5) の [ㄹ] が、(図 4) の [ㄹ] より、

(図 4) 助詞「～의」に対する [ㄹ]

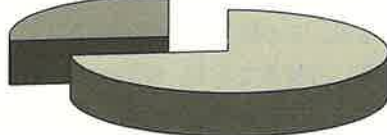
全問平均正解率(8%)



全問平均誤解率(92%)

(図 5) 助詞「～의」に対する [ㄹ]

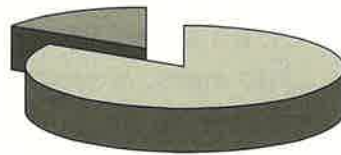
全問平均誤解率(26.67%)



全問平均正解率(73.33%)

(図 6) 助詞「～에」に対する [ㄹ]

全問平均誤解率(16%)



全問平均正解率(84%)

その正解率の高さを示す。ちなみに、「例文 B」において助詞「～의」の前に「받침 (받침)」のある②・③・⑤は、他の書き取りより正解率が若干低い。

一方、助詞「～에」に対する [ㄹ] は、(表 6) で 8 割以上の非常に高い正解率で、(図 6) がその傾向をより明らかに示している。しかし、(表 4) や (表 6) から、学習者は助詞「～의」と「～에」に対する弁別能力が低く、発音通り書く傾向にあって、文章における助詞「～의」と「～에」の文法的役割を熟知していないものと推測される。

つまり、「ハングル正書法 (한글 맞춤법)」の解説<sup>(18)</sup>におけるアンダーラインの部分で「ㄹ」

(18) 前掲 <http://www.korean.go.kr/search/grammar>

[/rule/explain\\_rule2.html](/rule/explain_rule2.html)

と「ㄹ」は弁別的特徴があると記されているが、これは母語としての韓国語話者がその対象であって、外国語としての韓国語学習者には当てはまらないと言える。

以上、外国語としての韓国語学習者には、助詞「～의」と「～에」の弁別能力が熟していない。これは逆に、その弁別能力を容易に身につけることができないことも意味している。したがって、助詞「～의」の発音は[ㄹ]ではなく、[ㄴ]としたほうが、外国語としての学習者には適切と言えよう。

## (2) 助詞「～의」の発音教育

前節で分析してきたように、外国語としての韓国語学習者に「～의」と「～에」の弁別能力が希薄だと言って、助詞「～의」に対して[ㄴ]の発音教育だけでいいのか。しかし、助詞「～의」が発音の際は[ㄹ]に定着して習慣となっているケースもあるため、その例外を指摘しなくては行けない。それでは、その例外[ㄹ]はどのようなケースなのか、生活の中で飛び交う言葉から拾っていく。

韓国では、電話番号や歌のなかでの助詞「～의」に対しては、[ㄹ]と発音する習慣がある。

まず電話番号の場合、読むパターンは以下のように多岐にわたる。つまり、(一) 全て漢数詞、(二) 全て漢数詞の桁数抜き、(三) 局番は漢数詞・番号は漢数詞の桁数抜き、(四) 局番は漢数詞の桁数抜き・番号は漢数詞の読み方である。例えば、457-2368の場合、「局」を入れるのと、入れないのを、それぞれ以下のように読む。

(一) 사백오십칠 국의 [에] 이천삼백육십팔

(二) 사오칠 국의 [에] 이삼육팔

(三) 사백오십칠 국의 [에] 이삼육팔

(四) 사오칠 국의 [에] 이천삼백육십팔

または

(一') 사백오십칠의 [에] 이천삼백육십팔

(二') 사오칠의 [에] 이삼육팔

(三') 사백오십칠의 [에] 이삼육팔

(四') 사오칠의 [에] 이천삼백육십팔

いずれの「국의 (局の)・「의 (の)」も、必ず[국에] = [구게]・[에]と読み、[국의] = [구크]・[의]とは読まない。

次は歌を歌う時における助詞「～의」の読み方である。以下は、I「고향의 봄 (故郷の春)」<sup>(19)</sup>、II「우리의 소원 (我々の願い)」<sup>(20)</sup>の歌詞の一部である。

I「나의 살던 고향은 꽃피는 산골,  
복숭아꽃 살구꽃 아기 진달래...」  
「私が住んでいた故郷は花咲く山里、桃の花、杏の花、小さい山ツツジ...」

また「우리의 소원 (我々の願い)」の一部である。

II「우리의 소원은 통일, 꿈에도 소원은 통일...」  
「我々の願いは統一、夢にも願いは統一...」

I・IIはともにメロディは考慮していない日本語訳である<sup>(21)</sup>。I・IIにおけるアンダーラインの助詞「～의」は歌うときには、[ㄹ]と発音する。Iの「～의」は主格の「～が」であり、IIは所有格の「～の」である。歌の中の助詞「～의」は、主格や所有格を問わず[ㄹ]と発音するのが習慣になっている。

このように電話番号や歌における助詞「～의」が[ㄹ]と習慣になっている例外もあるため<sup>(22)</sup>、

な(花)のさと(里)、もも(桃)のはな(花)、あんず(杏)のはな(花)、かわいいつつじ...」としている。

(22) 相づちを打つときの「천만의 말씀 (どういたしまして)」  
「천만의 말씀입니다 (とんでもありません)」

(19) 李元寿作詞、洪蘭坡作曲の歌である。

(20) 安東柱作詞、安丙元作曲の歌である。

(21) Iに関して、メロディを考慮した日本語訳は、『N HK ラジオハンゲル講座』(日本放送出版協会、2000年10月) 62頁で、「ふるさと(故郷)はやまめいのは

すべての助詞「～의」を〔-〕とする発音教育には無理が伴う。

以上、アンケート調査の結果で確認したように、外国語としての韓国語学習者には助詞「～의」と「～에」の弁別能力が低い。したがって、助詞「～의」に対して習慣的に〔ㄷ〕と発音するケース以外は、全て〔-〕と発音教育を行ったほうが学習者の正確な韓国語の駆使に繋がると思われる。

### 結びにかえて

日本の大学で採択されている上位10位の初級韓国語テキストでは、韓国の「標準語規定」と「ハングル正書法(한글 맞춤법)」の「의／-」及び助詞「～의」に関する発音規定を踏まえて、その発音が〔-〕・〔ㅣ〕・〔ㄷ〕と多岐にわたることが正確に、また具体的に紹介されているとは言い難い。

この「의／-」及び助詞「～의」に関する多様な発音は、複合母音の中でもとりわけ発音しにくい特徴を持っているからである。そのため

もあってとりわけ助詞「～의」の場合、会話においてはほとんど使われない。なお、会話文の中で助詞「～의」を避けられない時、あるいは文章に現れる助詞「～의」を読み上げる時、韓国の標準語圏における多くの人々は〔ㄷ〕と発音する。これも「-」の発音の難しさを反映しているものと思われる。

ところで、アンケート調査の結果、助詞「～의」に対する〔ㄷ〕の発音は、「～의」と「～에」の弁別能力を欠いているため、外国語としての韓国語学習者には〔-〕の発音教育が望ましいとの結論が得られた。とはいっても、韓国では電話番号と歌における助詞「～의」は、その発音を〔ㄷ〕とする習慣となっているため、これだけは例外的に〔ㄷ〕としておく必要がある。この他においては、すべて〔-〕とすべきであろう。

以上のことを踏まえて、初級韓国語テキストに「의／-」及び助詞「～의」に関する発音の詳細な紹介を載せ、これに基づく発音教育を行うことが外国語としての韓国語学習者の正確な韓国語の理解と駆使に繋がると期待される。

→ において、辞書では〔천마늬／천마네〕と記しているが、助詞「～의」を〔ㄷ〕の〔천마네〕とする傾向が

強い。